

国立大学法人山形大学の平成26年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

山形大学は、「自然と人間の共生」をテーマとして、学生教育を中心とする大学創り、豊かな人間性と高い専門性の育成、「知」の創造、地域及び国際社会との連携並びに不断の自己改革の基本理念に沿って、教育、研究及び地域貢献に取り組み、キラリと光る存在感のある大学を目指している。第2期中期目標期間においては、学士課程教育を通じ、自律した一人の人間として力強く生き、他者を理解し、ともに社会を構成していく力を養うこと等を目標としている。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、自然や地域社会を活用したフィールド活動・体験型授業の実施や、学部1年次生の段階から将来のキャリアパスを見据えた学習計画を立てることを目的として「低学年インターンシップ」を新たに開講するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

(機能強化に向けた取組状況)

大学としての強み・特色を最大限に生かし、自ら改善・発展する仕組みを構築するため、学長を本部長とする「大学改革戦略本部」や「機能強化等に関するタスクフォース会議」を設置し、「山形大学の将来構想」の改訂や、全学的な教育研究組織の在り方について検討を行うとともに、年俸制及びクロス・アポイントメント制度の規程を制定したほか、年俸制適用職員の業績給に係る業績評価等の取扱いを定めるなど、人事・給与システムの改革を進めている。

2 項目別評価

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化)

平成26年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 高度な教育・研究・診療及び社会貢献を推進するための教員組織の整備

教育組織と教員組織を分離し、柔軟な教員集団を形成することにより、より高度な教育・研究・診療及び社会貢献を推進するため、教員を全学的に一元管理する「学術研究院」を平成27年4月に設置することを決定しており、規程を制定する等、設置に向けた準備を進めている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載6事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

- 〔①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、
③資産の運用管理の改善〕

平成 26 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 外部資金獲得のための積極的支援による獲得件数の増加

外部資金の獲得について、「大型の競争的外部資金獲得のための支援制度」や「科学研究費補助金研究計画書の作成に関するアドバイザー制度」等により積極的に支援を行った結果、科学研究費助成事業の採択件数が増加するとともに、強みである有機材料分野における企業との共同研究の増加等により、外部資金比率は法人化以降、最も高い 6.6 % (対前年度比 1.1 ポイント増) となっている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 7 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

- 〔①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進〕

平成 26 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 学内マネジメントに関する情報共有を推進するための IR 機能の強化

学内マネジメント等に関する情報共有を推進するため、「総合的學生情報データ分析システム」に新たに分析ソフトを導入しユーザビリティの向上を図るとともに、「ファクトブック (教職員の情報共有を目的として各種統計資料を掲載している学内専用システム)」の掲載部署や掲載方法、掲載内容について検証を行い、ユーザーニーズやコスト軽減も勘案した新システムの導入を決定するなど、IR (Institutional Research) 機能の強化を図っている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 4 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

(①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守)

平成 26 年度の実績のうち、下記の事項に**課題**がある。

○ 入学者選抜における出題ミス

平成 27 年度の医学部看護学科推薦入試において、小論文の設問に出題ミスがあり、追加合格を行っていることから、再発防止等に向けた取組が望まれる。

○ 国立大学病院管理会計システムの利用における課題

会計検査院から指摘を受けた、国立大学病院管理会計システム（HOMAS）の継続的な利用に至らなかったなどの問題点について十分検討し、導入が予定されている次期システムを効果的かつ継続的に利用するために、次期システムの利用方針等を明確にするなどして、その利用に必要な体制の整備を図ることが望まれる。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 6 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

II. 教育研究等の質の向上の状況

平成 26 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 自然や地域社会を活用したフィールド活動・体験型授業の実施

教養科目に当たる「山形に学ぶ」を構成する自然や地域社会を活用したフィールド活動・体験型授業を、前後期合わせて 33 科目開講（前年度 16 科目）し、705 名が受講しており、授業改善アンケートでは 33 科目全てにおいて 5 点満点中 4.3 以上の高い満足度を得ている。

○ 科目ナンバリングの導入に向けた取組

学生のカリキュラムへの理解促進や授業科目選択の一助とするため、平成 27 年度から学士課程の全授業科目を対象に科目ナンバリングの導入を決定しており、導入に当たり全学の教育・学生委員会にワーキンググループを設置し附番方法を検討した上で、各学部等において、カリキュラムマップやカリキュラムツリーと併せて授業科目の位置付けを再確認・再点検した上で附番作業を実施し、シラバスや学生便覧等へ記載を行っている。

○ 学生のキャリアパス形成に向けた早期インターンシップの充実

学部 1 年次生の段階から将来のキャリアパスを見据え 4 年間の学習計画を立てることを目的として、基盤教育の教養科目において山形県中小企業家同友会との連携による「低学年インターンシップ」を新たに開講しており、短期及び中長期のインターンシップと併せて合計 162 名の学生が参加するなど、キャリア教育の充実を図っている。

○ 印刷型有機薄膜トランジスタ研究における傑出した成果の創出

有機エレクトロニクス研究センターにおいては、文部科学省「センター・オブ・イノベーション (COI) プログラム」の COI-T の支援により、異なる分野の融合が進展し、実用化に近づく研究成果が得られたことが評価され、COI の拠点に昇格するとともに、印刷型有機薄膜トランジスタの研究において、世界最大面積 (約 20 cm×20 cm) で、世界最薄 (約 1 μメートル) フィルムの電子回路の作製に世界で初めて成功している。

○ 総合スピ科学分野における世界初の実験の開始

総合スピ科学創成プロジェクトにおいては、欧州原子核研究機構 (CERN) において核子スピ研究の実績を持つ任期付教員 2 名を新たに配置し、大型偏極陽子ターゲットを用いた世界初の実験を平成 26 年 12 月から開始している。

附属病院関係

(教育・研究面)

○ トランスレーショナル・リサーチやがん研究等の推進

メディカルサイエンス推進研究所において、基礎研究からのシーズとその臨床応用のためのトランスレーショナル・リサーチを推進するため、「医学部研究推進カンファレンス」を開催しており、延べ 200 名を越える参加者を得るとともに、抗がん剤の創薬研究やトランスレーショナル・リサーチ及び山形県コホート研究を推進するため、平成 27 年 3 月に「がん研究センター」を設立している。

(診療面)

○ 周産期医療の充実に向けた取組

山形県においては、医学部附属病院を含む三次周産期医療機関 (4 病院) と置賜地域の二次周産期医療機関及びかかりつけ医療機関との間で周産期医療情報ネットワークを整備し運用を行っており、医学部附属病院は、当該ネットワークにおける地域周産期母子医療センターの 1 つとして、置賜地域の二次周産期医療機関からの母体・胎児及び新生児搬送の受入れを順調に実施している。

(運営面)

○ 入院患者に対する総合的かつ一元的なサービスの提供

入院時の患者に対して総合的かつ一元的なサービスを提供するため、国立大学として初となる「医療コンシェルジュステーション」を開設しており、各病棟スタッフとの連携を図りながら、入院時の生活案内や手続き、医療保険制度の説明、内服薬の確認等を実施している。